

## 精神疾患とその治療

**問題 84** 精神医学，精神医療の歴史に関する次の記述のうち，正しいものを1つ選びなさい。

- 1 クレペリン (Kraepelin, E.) は，18世紀末，長年鎖に繋がれていた精神障害者を解放し，人道主義に基づく治療を実施した。
- 2 呉秀三は，明治時代の日本において私宅監置されていた精神障害者の実態を批判し，精神衛生法制定のきっかけをつくった。
- 3 シュナイダー (Schneider, K.) は，精神障害の分類に努力し，現在の精神疾患分類にも大きな影響を与えた。
- 4 フロイト (Freud, S.) は，精神分析の創始者であり，神経症性障害の機序の解明に大きな影響を与えた。
- 5 ライシャワー事件は，戦後の日本の精神医療に大きな影響を与え，精神保健法の制定のきっかけになった。

**問題 85** 脳の部位とその機能に関する次の組合せのうち，正しいものを1つ選びなさい。

- 1 側頭葉——運動性言語機能
- 2 後頭葉——視覚や色彩の認知機能
- 3 頭頂葉——意志や判断の制御機能
- 4 視床下部——記憶機能
- 5 海馬——体温調節機能

**問題 86** 精神疾患の成因と分類に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 外因性精神障害には、統合失調症が含まれる。
- 2 内因性精神障害には、双極性障害が含まれる。
- 3 心因性精神障害には、アルツハイマー型認知症が含まれる。
- 4 DSM-5において双極性障害は抑うつ障害群の一部に含まれる。
- 5 DSM-5はWHO（世界保健機関）によって作成されている。

**問題 87** 症状と精神疾患に関する次の組合せのうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 保続は、認知症や脳血管障害などの器質性精神障害でみられ、思考が1つのことにこだわって進まない症状を指す。
- 2 振戦せん妄は、統合失調症の急性期にみられ、多彩な幻覚を伴った精神運動興奮状態を呈する。
- 3 観念奔逸は、解離性障害でみられ、別人格の出現により主人格の観念が逸脱することを指す。
- 4 思考の制止は、統合失調症でみられ、幻聴などにより思考の流れが中断することを指す。
- 5 対話性の幻聴は、シュナイダーの一級症状に挙げられ、統合失調症の診断に有用な症状の一つである。

**問題 88** 次のうち、図や絵をかく（描く、書く）ことで進められる心理的検査として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ウィスコンシンカード分類検査
- 2 ベンダー・ゲシュタルトテスト
- 3 レーブン色彩マトリックス検査
- 4 主題統覚検査
- 5 HTPテスト

**問題 89** うつ病ないし双極性障害に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 病因に対する仮説の一つとして、アセチルコリンやドーパミンといった脳内モノアミンの減少や、シナプス受容体の変化が提唱されている。
- 2 うつ病が重篤な場合は支持的精神療法のみでなく、抗うつ薬の内服とともに認知行動療法や洞察的精神療法の併用により治療効果を上げる。
- 3 双極性障害が重篤な場合は薬物の内服のみでなく、デポ剤の注射による気分安定薬の投与や高照度光線療法の併用により治療効果を上げる。
- 4 双極性障害による爽快気分は、うつ病による抑うつ気分と同様に朝方が強く、午後から夕方にかけて軽快する日内変動をみることが多い。
- 5 双極Ⅰ型障害はⅡ型障害に比べて、過去のうつ病エピソードの有無を問わず、現在の躁病エピソードが入院治療の対象となる点で異なる。

**問題 90** 神経性無食欲症にしばしばみられる所見に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 脈拍数の増加
- 2 全身の脱毛
- 3 甲状腺機能の亢進
- 4 高コレステロール血症
- 5 無月経

**問題 91** 精神療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 系統的脱感作法は、うつ病の精神療法に有用と考えられ、マイナス思考が生じる場面を階層化し、段階的に合理的な状況の受容に導く治療法である。
- 2 支持的精神療法は、患者の苦悩や行動を否定せず、すべて支持することにより、患者の自尊心を回復させる治療法である。
- 3 力動精神療法（精神分析的な精神療法）は、統合失調症の精神療法に有用と考えられ、自己の再生を導く治療法である。
- 4 森田療法は、発達障害に有用と考えられ、自由連想法を用いて不適応を起こしている心理的要因を内省させる力動精神療法の一つである。
- 5 認知行動療法は、認知のあり方に働きかけて精神障害の治療を行う方法で、強迫性障害に対して有効である。

**問題 92** 精神科薬物療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 抗精神病薬には、抗幻覚妄想作用と抗けいれん作用がある。
- 2 双極性障害の治療においては、抗うつ薬の使用を原則として、必要に応じて抗不安薬を併用する。
- 3 炭酸リチウムは、治療域と中毒域が近いので、血中濃度をモニタリングしながら慎重に投与する。
- 4 抗精神病薬の副作用には、振戦、腎障害、甲状腺機能障害などがある。
- 5 抗不安薬の服用においては、精神依存も身体依存も発生することはない。

**問題 93** 精神科治療における人権擁護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科病院の入院にあたっては、書面による告知や人権擁護にかかわる機関の明確化が定められている。
- 2 精神科救急情報センターは市町村によって運営され、精神保健に関する身近な相談機関として利用されている。
- 3 精神科病院において隔離等の行動制限を行った場合、記録の必要性に関する法的な規定はなく、各病院の自主性に任されている。
- 4 医療保護入院にあたっては、精神保健指定医1名以上の診断および選任された保護者の同意が必要である。
- 5 身体拘束を行う場合に「他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪影響を及ぼす場合」が含まれる。

## 精神保健の課題と支援

**問題 94** 各発達段階における精神保健の課題に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 乳児期（1歳まで）では、出産後の母親の精神的問題としてマタニティーブルーがある。
- 2 学童期（6歳～12歳頃）には、学校・集団場面への不適應のことを、モラトリアムという。
- 3 思春期（12歳～18歳頃）は、身体的、心理的、社会的に変動が大きい時期であり、この時期の行動・心理症状を空の巣症候群という。
- 4 青年期（18歳～30歳頃）はアイデンティティの確立期であり、うつ病の好発年齢とされている。
- 5 壮年期・中年期（30歳～65歳頃）は、家庭や社会での役割が変化・増大する時期であり、身体的・精神的なストレスから、飲酒やギャンブルなどに注意が必要である。

**問題 95** 児童虐待と高齢者虐待の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族による児童虐待の種類で最も多いのは、身体的虐待である。
- 2 養護者による高齢者虐待の種類で最も多いのは、身体的虐待である。
- 3 高齢者虐待が最も生じやすい家族形態は、夫婦のみの世帯である。
- 4 児童相談所で対応している児童虐待相談について、近年の被虐待児数の年齢別割合は、3歳から学齢前での増加が著しい。
- 5 「高齢者虐待防止法」の施行以来、養介護施設従事者等による高齢者虐待は減少傾向にある。

(注) 1 「高齢者虐待防止法」とは、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

2 「養介護施設従事者等」とは、介護老人福祉施設など養介護施設又は居宅サービス事業など養介護事業の業務に従事する者である。

**問題 96** 我が国の学校教育に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 文部科学省の不登校の定義では、不登校の要因・背景に経済的な理由も含んでいる。
- 2 文部科学省のいじめの定義では、いじめの発生場所を学校内に限定している。
- 3 「文部科学省の調査」によると、小・中学校における不登校児童生徒の割合は、2012年度（平成24年度）以降減少傾向にある。
- 4 「文部科学省の調査」によると、小・中・高等学校から報告のあった自殺した児童生徒数は230人である。
- 5 「文部科学省の調査」によると、自殺した児童生徒がおかれていた状況で最も多いのは「友人関係での悩み（いじめを除く）」である。

(注) 「文部科学省の調査」とは、2014年度（平成26年度）「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）のことである。

**問題 97** 「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 事業者は、常時使用する労働者に対し、6か月ごとに1回、定期的に心理的な負担の程度を把握するための検査(以下、ストレスチェック)を行わなければならない。
- 2 ストレスチェック制度は、三次予防を主な目的として創設された。
- 3 ストレスチェックを実施できるのは産業医及び保健師である。
- 4 ストレスチェックの結果は、ストレスチェックを実施した者より直接本人に通知され、受検者本人の同意なく事業者に提供されることは禁止されている。
- 5 心理的負担の程度が高い労働者の職場環境の調整は、衛生委員会により行われる。

(注) 「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度」とは、労働安全衛生法で定める「労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査及びその結果に基づく面接指導の実施等を事業者に義務づける制度」のことである。

**問題 98** 我が国の子どもの貧困問題に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 2014年(平成26年)6月に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」において、スクールソーシャルワーカーの配置の推進が明記され、配置に関して具体的な数値目標が示された。
- 2 我が国の子どもの貧困率(17歳未満の子どもの相対的貧困率)は、OECD加盟国の平均を下回っている。
- 3 子どもがいる現役世帯のうち、大人が1人の世帯の相対的貧困率は、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準である。
- 4 経済的理由により就学困難と認められ就学援助を受ける小・中学生の割合(就学援助率)は、最近10年間は減少傾向にある。
- 5 貧困によって引き起こされる社会的不利は子どもの成長や発達に大きな影響を与える。



**問題 99** 勤労者のメンタルヘルスに関する法規及び機関と、その内容に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域障害者職業センター——職場復帰支援
- 2 精神保健福祉センター——職場適応援助者（ジョブコーチ）
- 3 労働基準法——衛生委員会
- 4 労働安全衛生法——EAP（Employee assistance program）
- 5 過労死等防止対策推進法——リワーク・プログラム

**問題 100** 次の記述のうち、近年の精神保健の諸問題に関する対策として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 薬物依存対策として2014年（平成26年）に薬事法（現「医薬品医療機器等法」）が改正され、危険ドラッグを所持しているだけでも罰せられるようになった。
- 2 「自殺総合対策大綱」（2012年（平成24年））では、自死遺族の心の健康を保つために、遺族同士が集まって話すのを避けることとしている。
- 3 認知症対策として「認知症サポーターキャラバン」で養成された認知症サポーター数は、近年は減少傾向にある。
- 4 ひきこもり対策として、地域若者サポートステーションでは、就労を除くすべてのニーズに対する支援を提供している。
- 5 災害派遣精神医療チーム（DPAT）は通常、災害発生の数か月後から被災地での支援活動を始める。

（注） 「医薬品医療機器等法」とは、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」のことである。

**問題 101** 次の記述のうち、精神保健に関する諸活動として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 新健康フロンティア戦略は、健康づくりや疾患予防に重点をおく施策を進めていく、国民の健康向上を目的とした戦略である。
- 2 「健康日本21」は、国民自らが予防を重視した健康づくり、家族の役割の見直しや地域コミュニティの強化、研究開発によって、国民が持っている能力を活かして充実した人生を送ることができるように支援するプランである。
- 3 「健康日本21」(第2次)は、健康寿命の延伸・健康格差の縮小など基本的な5項目について、健常者が障害者を支えることで、すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力のある社会を目指すプランである。
- 4 スマート・ライフ・プロジェクトは、企業や団体が主体となり、「健康寿命をのばしましょう。」をスローガンに「運動、食生活、禁煙、睡眠」の4つの柱において具体的な行動が設定されている。
- 5 2012年度(平成24年度)の「精神保健福祉資料」によると、精神科病院における19歳以下の6月の新入院患者数は、全体の約1割未満である。

(注) 「精神保健福祉資料」とは、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が、毎年6月30日付で都道府県・政令指定都市に報告を依頼している調査のことである。

**問題 102** 精神保健福祉の普及や啓発などを目的とした民間団体による活動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 AA (Alcoholics Anonymous) とは、アルコール依存症者を対象にしたセルフヘルプグループであるが、活動が始められた当初は薬物依存症者も参加していた。
- 2 NA (Narcotics Anonymous) とは、日本で設立されたアルコール依存症者の家族を対象にした家族会である。
- 3 DARC (Drug Addiction Rehabilitation Center) とは、薬物依存の回復者が運営している医療機関である。
- 4 みんなねっと (全国精神保健福祉会連合会) とは、当事者によって立ち上げられた精神障害のある人のためのセルフヘルプグループである。
- 5 コンボとは、精神障害のある人のためのピアサポートによる活動である。

**問題 103** WHO (世界保健機関) に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 メンタルヘルスアクションプラン2013-2020には、2020年までに達成する目標として、世界の80%の国々がメンタルヘルス指標を2セット以上毎年収集し、報告することが明記されている。
- 2 世界自殺レポートは、自殺予防が世界的な保健課題として優先であると捉え、15歳以上を対象にWHO統合国際診断面接から得られた結果をもとに作成された。
- 3 WHOの勧告と行動指針には、世界の精神科医療に関する勧告や行動指針が明示されている。
- 4 2016年世界保健デーのテーマは、アルコール依存症である。
- 5 ライフスキル教育プログラムは、心理社会的能力を向上させるために小学生を対象に作られたプログラムで、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育として有効である。

## 精神保健福祉相談援助の基盤

**問題 104** 精神保健福祉士法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士が信用失墜行為を行った場合、1年以下の懲役又は30万円以下の罰金に処される。
- 2 精神保健福祉士が業務を行うに当たって、精神障害者に主治医がいる場合は、相談や情報共有を求めることはできるが、指導まで受ける必要はない。
- 3 精神保健福祉士に欠格事由は設けられていない。
- 4 2010年（平成22年）12月の精神保健福祉士法の改正により、精神保健福祉士は「障害者総合支援法」による事業を利用する精神障害者の地域相談支援の利用に関する相談に応じることが規定されている。
- 5 2010年（平成22年）12月の精神保健福祉士法の改正において、社会福祉士及び介護福祉士法と同様に「誠実義務」と「資質向上の責務」が追加された。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

**問題 105** 精神保健福祉士の役割や専門技術に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士の役割は、相談・助言・指導の3つである。
- 2 日本精神保健福祉士協会倫理綱領には、倫理原則と倫理基準があり、①クライアントに対する責務、②機関に対する責務、③社会に対する責務の3つについて各々に示されている。
- 3 「精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」(2010年(平成22年))の中で、今後の精神保健福祉士に求められる役割の一つとして、「医療機関等におけるチームの一員として、治療中の精神障害者に対する相談援助を行う役割」が挙げられている。
- 4 「障害者総合支援法」において、精神障害者や家族の相談に対応する職員として、市町村に精神保健福祉士の配置が義務づけられた。
- 5 精神保健福祉士は、クライアントのニーズ実現のため、署名活動や社会資源の開発等のアファーマティブアクションを行う。

**問題 106** 精神保健福祉士の倫理に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「生活費に困っている」と訴える施設の利用者に、障害年金制度について説明したが理解が難しく、両親に来てもらい手続きを進めてもらうよう依頼する。
- 2 精神保健福祉士法第40条に明記されている秘密保持義務は、精神保健福祉士でなくなった後も同様であり、違反した場合、20万円以下の罰金に処するとされている。
- 3 倫理綱領は専門職倫理の行動規範を示したものであるため、判断に迷ったら倫理綱領を最優先とし、倫理綱領のとおりに行動すれば誰でも正しいソーシャルワークが実践できる。
- 4 ソーシャルワーク実践においてバーンアウト（burnout syndrome；燃え尽き症候群）しないために、精神保健福祉士には高いストレス対処能力が求められており、周りに相談せずに1人で対処しなければならない。
- 5 クライアントを他機関に紹介する際、精神保健福祉士同士であったとしても、個人情報や記録の提供についてクライアントと協議しなくてはならない。

**問題 107** 2014年に採択されたソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワークのグローバル定義では、西洋中心主義への批判から多様性を尊重し、発展途上国の意見や実状、先住民の知を反映することが盛り込まれた。
- 2 ソーシャルワークのグローバル定義は世界共通のものであり、いかなる国であっても、この原則に則り展開する必要があるが、各国及び世界の各地域の実情に併せた展開をしてはならない。
- 3 国際ソーシャルワーカー連盟には、日本では「社会福祉専門職団体協議会」を調整団体として、「日本ソーシャルワーカー協会」「日本社会福祉士会」「日本医療社会事業協会」「日本介護福祉士会」の団体が加盟している。
- 4 ソーシャルワークのグローバル定義では、ソーシャルワークは生活課題に取り組み、ウェルビーイングを高めるよう、人々や様々な構造に働きかけることが記されている。
- 5 ソーシャルワークのグローバル定義では、ソーシャルワークは学問に基づいた専門職であり、実践であるとされている。

**問題 108** 相談援助の理念に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ヴォルフエンズベルガー（Wolfensberger, W.）は、ノーマライゼーションの理念をアメリカに導入し、自立生活運動としてのノーマライゼーションの概念を主張した。
- 2 バンク・ミケルセン（Bank-Mikkelsen, N. E.）は、「すべての知的障害者の日常生活の様式や条件を、社会の普通の環境や生活方法にできるだけ近づけることを意味する」と「ノーマライゼーションの原理」で述べている。
- 3 ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の理念は、1994年にスペインのサラマンカで開催された「特別なニーズ教育に関する世界会議」において出された。
- 4 日本ソーシャルワーカー協会の倫理綱領においてエンパワメントとは、自由、平等、共生に基づくものであるとされている。
- 5 インフォームド・コンセントは、医師が患者に対して適切だと考えられる治療法の利点について十分な説明を行い、その治療法に対する同意を得ることである。



**問題 109** 精神保健福祉分野における相談援助に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 精神科病院に長く入院している患者は、施設症による社会生活能力の低下がみられることが多く、生活の質を担保するためにも、専門職主導で積極的に代理行為を行うことが求められている。
- 2 パターナリズム（paternalism；父性的温情主義）に基づいた支援は、それがどれだけ利用者の利益につながるものであっても、ソーシャルワークの価値に基づいた実践とはいえない。
- 3 抑うつ、不眠、食欲不振などの症状で受診する人の背景に、アディクション問題が隠れていることもあるので、注意が必要である。
- 4 精神科デイケアのプログラム内容については、メンバーが柔軟な対応力を身に付けられるようデイケアスタッフのみで考え、メンバーには極力直前まで知らせないようにする。
- 5 セルフヘルプグループとのかかわりについて、運営の主役はメンバーであるものの、メンバーの運営力に限界があることも多く、精神保健福祉士が管理運営しなくてはならない場合もある。

**問題 110** Aさん（21歳，男性）は幻聴・妄想の症状が出現し，U病院を受診したところ，統合失調症と診断された。その後6か月の入院でAさんの症状は落ち着き，U病院を退院した。その後，U病院への通院を続けながら就労継続支援B型事業のV作業所に通い始めた。Aさんが入院時に担当していたU病院のB精神保健福祉士は，外来時にAさんから相談があると言われた。Aさん曰く，「作業所の職員の中に，利用者に対して人格を否定するような暴言をする人がいていつも嫌な思いをしている。地理的な事情により，他に自宅から通えそうなところがなく，気の合う仲間もいるので揉めごとは起こしたくはない」とのことであった。

次の記述のうち，この後のB精神保健福祉士の対応として，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 U病院で権利擁護に関連する講演会を主催することを提案する。
- 2 Aさんの妄想症状が出現している旨を主治医に報告する。
- 3 Aさんが揉めずにV作業所を退所できるよう，辞める口実を一緒に考える。
- 4 Aさんが他の施設に通うことができるよう，新しい施設の設立を行政に要求する。
- 5 V作業所に連絡を取り，事実関係を確認する。

**問題 111** 精神科医療機関における専門職の役割に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 臨床心理技術者は、患者や相談者に心理学的な援助や判定を行い、医師の指示のもと、精神療法やカウンセリングを実施する国家資格及びその有資格者である。
- 2 退院後生活環境相談員は、医療保護入院者が可能な限り早期に退院できるよう、個々の退院支援のための取組みにおいて中心的な役割を果たす。
- 3 精神保健指定医は、医師国家試験に合格し医師として登録した後、精神科臨床経験3年以上を含む5年以上の臨床経験を有する精神科医が講習を受け、レポートを提出することで申請できる資格であり、医師法に定められている。
- 4 作業療法士は、身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力の回復や維持、障害の悪化の予防を目的に、自立した日常生活が送れるよう支援する専門職であり、作業療法士法に規定されている。
- 5 精神保健福祉士は、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ助言、指導、福祉サービスを提供する専門職であると精神保健福祉士法に規定されている。

**問題 112** 行政機関及び福祉サービス事業所等における専門職の役割に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 社会福祉主事は、福祉事務所現業員として任用される者に要求される国家資格であり、社会福祉各法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を行う専門職である。
- 2 相談支援専門員は、精神障害のある人が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、サービス等の利用計画の作成、地域生活への移行・定着に向けた支援、住宅支援など全般的な相談支援を行う。
- 3 2014年（平成26年）の労働安全衛生法の改正により創設されたストレスチェック制度において、ストレスチェック実施者は、従業員のストレス状況が評価された後、対象者への面接指導を行う。
- 4 精神保健福祉相談員は、行政機関において精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談援助のほか、精神障害者やその家族、関係者等に対する訪問支援を行う専門職であるが、必ずしも精神保健福祉士である必要はない。
- 5 サービス管理責任者は、療養介護・生活介護・自立訓練・共同生活援助・就労移行支援・就労継続支援において、サービスの質の向上を図るため、利用者のアセスメント、個別支援計画の作成、定期的な評価など障害福祉サービスの提供をまとめる役割がある。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題113から問題115までについて答えなさい。

〔事例〕

精神科病院の急性期病棟に所属する C 精神保健福祉士は、D さん（21歳，男性）の入院担当となった。D さんは実家が遠方で，母方の叔父夫婦宅から大学に通っていたが，震災により実家が半壊し，さらに父親が失業して仕送りが止まり，生活費のためにアルバイト量を増やした。その結果，実家への心配や疲労が重なって，不眠が続き幻聴や妄想が現れたびたび騒ぐため，叔父に連れられて受診に来た。

診察の結果，D さんは統合失調症と診断されたが受け入れることができず，泣いたり騒いだりしたため，医師は叔父に医療保護入院が必要であると説明し，叔父へ入院手続きについて説明をするよう C 精神保健福祉士に指示した。（問題113）

D さんは急性期病棟に入院後 4 日ほどで落ち着き，保護室から 4 人部屋に移った。C 精神保健福祉士は，自分が退院後生活環境相談員として入院中から退院に向けた支援を行うことや退院支援委員会などについて説明し，あらためて面接時間を設けた。入院予定期間が 3 か月となっていたため，大学の休学届について相談するなどした。その後，D さんは順調に回復していたが，父親が急逝したとの訃報が退院間近に届き，ショックから再び病状が悪化してしまった。その後も入院が続き，医療保護入院から任意入院に切り替わったのは入院から 10 か月後であった。この間，D さんは病室のカーテンがないことへの苦情と，若い患者の多い病棟への転棟や小遣いの自己管理の希望を C 精神保健福祉士に訴えていた。（問題114）

任意入院に変更後すぐに転棟し，1 か月先の退院を見すえた 2 回目の退院支援委員会を開催することになった。母親にも何度か相談したところ，経済的な理由から大学を中退せざるを得ない状況になっていることが分かった。D さんの希望で参加した叔父からは，大学中退の方針や，D さんの従妹にあたる自分たちの子どもへの影響が心配との理由から寄宿を受け入れ難いとの申し出があった。それを聞いた D さんは，今帰郷しても生活が難しく，住み慣れた大学の近くで暮らしながら今後の生活目標を見つけて頑張りたいと言う。しかし，病状悪化への不安もあり，安心して暮らせるための寮や相談機関などのサービスが欲しいと話していた。（問題115）

**問題 113** 次の記述のうち、この時点で**C**精神保健福祉士が叔父に説明した内容として、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 医療保護入院には家族等の同意が必要なことを説明し、直系親族の叔父が同意者要件を満たすので、同意書に署名をお願いします。
- 2 **D**さんの状態を案じつつも急な展開に困惑している叔父に対し、手続き等は病院で責任をもって行うことを伝えて安心してもらう。
- 3 **D**さんが医師の診断を受け入れていないことを尊重し、入院手続きにかかる叔父への負担も考慮し、一度**D**さんと帰宅して実家の両親ともよく相談することを勧める。
- 4 受診同行をねぎらった上で、入院から退院までの支援について説明し、分からないことや不安なことがある場合は、いつでも相談に来てもらうよう伝える。
- 5 医療保護入院制度の説明をしたうえで、入院直後から退院に向けてしっかりサポートすることと、話し合いには必ず叔父夫婦にも参加してもらうようになることを伝える。

**問題 114** 次の記述のうち、**D**さんの訴えに関して行う**C**精神保健福祉士の対応として、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 転棟は症状やベッドコントロールに関連して決められるため、医師か看護師長に話すよう**D**さんに伝える。
- 2 療養生活にどのような不満を感じているのかを面接等で聴き取るが、実現困難なこともあると考え、上司に相談するなどの対応は控える。
- 3 当該病院では、入院形態に関わらず病院で小遣いを管理する仕組みとなっていることを**D**さんに説明し理解してもらう。
- 4 父親の墓前や母の誕生日に花を贈りたいために**D**さんは小遣いの自己管理を希望したことが分かり、病院の担当者に**D**さんの思いを代弁する。
- 5 **D**さんの訴えだけでなく、他の患者にも意見を聞き、検討するよう病棟スタッフに提案する。

**問題 115** 次の記述のうち、医療保護入院者の退院支援委員会における**C**精神保健福祉士の対応として、**適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 **D**さんの退院後の支援チームには地域援助事業者の参加が必要と考え、**D**さんに相談し保健師や相談支援専門員、ピアサポーターに出席してもらうよう依頼する。
- 2 退院後の**D**さんの住居確保が難しいと考え、叔父にもう暫く受入れを継続して欲しいと依頼する。
- 3 **D**さんの退院後の様々な不安に対し、病院のデイケアの利用や相談ができること、同法人のグループホームが利用できることを伝える。
- 4 叔父の家で暮らせない場合、新しい居住地が決まってから、当該居住地の関係者で退院支援委員会を再度開くことを提案する。
- 5 **D**さんの一人暮らしに向けての支援を検討したが、地域の社会資源が不足していることが分かり、他の支援方法について話し合う。

## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題116から問題118までについて答えなさい。

### 〔事例〕

アパートで一人暮らしをしている E さん (52歳, 女性) は, 2年前, 仕事のストレスからうつ病を発症し休職した。それ以来, 真面目な E さんは, ある程度回復しては仕事に復帰し, ストレスを溜めて自殺未遂などの衝動行為に及んでは精神科病院に入院するということを繰り返していた。

ある日, E さんは, 精神科病院外来の待合室で知り合った F さんの誘いで, 地域活動支援センター I 型に通い始めた。すると, E さんは, すぐに打ち解け, スタッフである G 精神保健福祉士に対して「今まで孤独だったが友達もできて楽しい」とうれしそうに話していた。

しかし, ある日の夕方, 動揺した声の F さんから地域活動支援センターに電話があり, G 精神保健福祉士が受けた。用件は, E さんの自宅で些細なことで口論となり, E さんが大量服薬による自殺未遂を図り, 意識が無いとのことだった。(問題116)

その後, 救急病院に搬送されて処置を受けた E さんは, 幸い大事には至らず, 次の日には退院した。そして, その翌日には, 外来で本人を含めた話し合いが行われた。参加者は, 主治医, 病棟看護師, 外来精神保健福祉士, G 精神保健福祉士であった。その話し合いで E さんは, 会社に復職できないことが大きな精神的負担となっているので早く復職したいと話した。主治医と病棟看護師は, まずは入院して衝動行為が出ないように治療に専念するよう強く勧めたが, E さんは入院を嫌がった。話し合いが平行線になっているため, G 精神保健福祉士は, 状況を変えるために発言した。(問題117)

数か月後, E さんは地域で支援を受けながら復職を目指している。(問題118)



**問題 116** 次の記述のうち、Fさんに対しG精神保健福祉士が行う対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 FさんにEさんとの口論の内容を教えて欲しいと伝える。
- 2 主治医と対応を話し合うので、電話を切って10分後にかかけ直すよう伝える。
- 3 Fさんに、119番に電話し、指示を受けるように伝える。
- 4 自殺総合対策推進センターに電話し、対応を相談するよう伝える。
- 5 精神科救急医療情報センターに電話し、対応を相談するよう伝える。

**問題 117** 次の記述のうち、G精神保健福祉士が発言した内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 治療の責任者でもある主治医の意見に従うようEさんに提案する。
- 2 Eさんの自己決定を尊重するため、主治医と病棟看護師の判断がパートナーリズムに基づくものであると厳しく批判する。
- 3 意見をまとめるため、Eさんの入院について多数決により決めることを提案する。
- 4 発言していない外来精神保健福祉士に意見を求める。
- 5 Eさんに入院したくない理由について尋ねる。

**問題 118** 次のうち、Eさんが復職のために活用できる支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援事業所のリワークデイケア
- 2 地域活動支援センターのSST（社会生活技能訓練）
- 3 障害者就業・生活支援センターのリワーク支援
- 4 精神科診療所の森田療法
- 5 公共職業安定所（ハローワーク）の職業指導

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

**問題 119** 我が国の精神保健医療福祉の歴史に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 1900年（明治33年）に制定された精神病者監護法において、官公立の精神科病院を設立する考えが明記された。
- 2 宇都宮病院事件をきっかけに保安処分の必要性が高まり、1965年（昭和40年）に精神衛生法が改正され、従来の措置入院に加え、緊急措置入院制度が新設された。
- 3 1987年（昭和62年）の精神衛生法改正により、精神障害者は障害者福祉の対象となり、精神障害者保健福祉手帳制度が創設された。
- 4 1999年（平成11年）の精神保健福祉法改正により、保護義務者制度が新設された。
- 5 2013年（平成25年）の精神保健福祉法改正により、医療保護入院者の退院後の生活環境に関する相談及び指導を行う者（退院後生活環境相談員）が設置された。

（注） 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 120** 精神障害者の人権に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 「障害者虐待防止法」では、医療機関従事者による虐待を障害者虐待として規定した。
- 2 成年被後見人である精神障害者は、選挙権を有していない。
- 3 母体保護法により精神障害者に対する優生手術は禁止された。
- 4 国や地方公共団体は障害者に対して合理的配慮の提供を行わなければならない。
- 5 精神医療審査会の創設により、精神科病院における人権侵害は解消された。

（注） 「障害者虐待防止法」とは、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

**問題 121** 精神障害者支援の理念に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アンソニー（Anthony, W.）は、支援の中で依存を増やすことは、結果的には当事者の自立につながらないとしている。
- 2 エンパワメントアプローチには、クライアント自身が問題解決の主体として生きる力を発揮できるようになるべく、力の発揮を促進するあらゆる支援が含まれる。
- 3 レジリアンスとは、すべての人を排除せず、社会の中に包み込んでいくことを目的とする概念である。
- 4 スtrenghsモデルによるケースマネジメントの焦点は、欠陥や病理である。
- 5 リカバリーの構成要素で最も重要な要素は治癒（cure）することである。

**問題 122** 精神保健福祉士が行うストrenghs視点に基づく退院支援に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 本人の希望する一人暮らしのための物件を探す。
- 2 退院後は精神科デイケアを利用するようにクライアントに伝える。
- 3 退院に向けて、服薬自己管理をするように指導する。
- 4 退院後の生活について、本人の馴染みの喫茶店で話し合う。
- 5 長期入院による「生活のしづらさ」に着目する。

**問題 123** Hさん（50代，男性，統合失調症で精神科に通院中）は，半年前に10年間入院していた精神科病院から退院し，公営住宅で暮らしている。普段からHさんは町内会の回覧をよく見ている。町内会のボランティアが主催する料理教室に参加してみたいと思っていた。しかしHさんは，自分が統合失調症であることが周囲に知られると偏見の目で見られ，差別的な対応をされるのではないかと不安がある。そのため，参加申込みを躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>していることを相談支援事業所のJ精神保健福祉士に話した。

次の記述のうち，J精神保健福祉士がHさんの思いをもとに，地域を基盤とした支援とネットワークを形成していく過程として，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさんの住む町の課題として，協議会でHさんの事例を取り上げる。
- 2 すぐに精神障害の理解に関する勉強会を開き，住民ネットワークをつくり上げる。
- 3 Hさんの持つインフォーマルなネットワークを活用し，料理の練習をする。
- 4 Hさんをよく理解してもらうために，プロフィールをつくってボランティアに渡す。
- 5 Hさんの了承を得て，ボランティアに相談しJ精神保健福祉士も一緒に参加してみる。

**問題 124** 精神保健福祉士が行うインテークに関する次の記述のうち，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 転移や逆転移が起こらないよう，必要最低限の情報収集に留めるよう注意する。
- 2 精神保健福祉士が所属する機関で提供できるサービスの内容や機能を伝える。
- 3 インテークの段階では冷静な判断が必要となるため，ストレングス視点は必要ない。
- 4 インテークの過程でエコマップを完成させる。
- 5 相談内容を分析，整理し，解決すべき課題（ニーズ）を明らかにする。

**問題 125** 集団精神療法に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 集団精神療法とは意図的なグループ体験を通して、利用者の心理・社会的な機能を高め、様々な問題に効果的に対処できるように支援する方法のことである。
- 2 医療機関の精神科で診療報酬が点数化されている集団精神療法は、入院集団精神療法のみで、対象者はアルコール・薬物依存症やうつ病の患者のみとなっている。
- 3 集団精神療法では、グループメンバー一人ひとりのニーズに焦点を当てるよりも、グループの成長を促すための全体のニーズを中心に扱うことが重要である。
- 4 グループの力動とは、個々のグループにおいてメンバー間に生じる固有の力のことであり、メンバー同士の相互作用を指しているため、支援者との相互作用は含まれない。
- 5 グループの規範とは、メンバーが安心して安全な気持ちでグループに参加するために作られたルールであり、もし規範から外れた行動をとるメンバーがいる場合、速やかにグループから外れてもらうようにしなければならない。

**問題 126** SST (Social Skills Training) の基礎理論に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 アイゼンク (Eysenck, H. J.) の行動療法に基づいている。
- 2 ベック (Beck, A. T.) の認知療法に基づいている。
- 3 バンデューラ (Bandura, A.) の社会的学習理論に基づいている。
- 4 パールズ (Perls, F.) のゲシュタルト療法に基づいている。
- 5 ロジャーズ (Rogers, C. R.) の来談者 (クライアント) 中心療法に基づいている。

**問題 127** Kさん(20歳, 女性)は, 中学時代からのいじめが原因で不登校がちだったが, 大学への進学をきっかけに普通の生活を送っていた。しかし, 友人とのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)でのやり取りで生じた誤解がきっかけで被害的になり, 不安が高まり大学に行けず半年間自宅から出ることができなくなった。心配した母親(47歳)は, Kさんを連れてかかりつけのクリニックに相談に行ったが, 母親自身もKさんに対してどう接してよいのかわからず, 面談の中で精神保健福祉士を前に, とにかく大学に行くように叱咤激励や説得をしていた。母親は, 現在のKさんの様子を身近で相談する相手がいなく, 自身も精神的に不安定になり, Kさんへの苛立ちや自身への怒りや無力感, 悲しみなどの感情が高まり, 何をどうしてよいのか混乱していた。

最初の面接で母親への相談対応を効果的に行う方法について, 優先順位が高い技法で適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ラポール
- 2 沈黙の効用
- 3 転移
- 4 感情の反映
- 5 自己覚知

**問題 128** 精神障害者の家族教育プログラムに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 家族心理教育とは、継続した問題を抱える人に対して行われる教育的な支援法であり、疾病や障害について正しい知識の習得と最新の情報の共有を目的とした教育である。
- 2 感情表出（EE）研究とは、家族自身の様々な思いを支援者に対して吐露することにより家族自身が癒されるという研究である。
- 3 マクファーレン（McFarlane, W. R.）による心理教育的複合家族グループの効果として、グループ体験や新しい社会的交流による社会的孤立の防止があるとしている。
- 4 アンダーソン（Anderson, C. M.）は、家族教育プログラムが必要とされる理由について、脱施設化による家庭でのケアの重要性や精神障害の生物学的研究（特にストレス脆弱性モデル）の進歩があるとしている。
- 5 日本の家族教育プログラムは、欧米の家族心理教育プログラムの紹介以前に、1965年（昭和40年）に精神科診療所が中心となって勉強会を始めたことから広がっていった。

**問題 129** スーパービジョンに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 職場におけるスーパーバイザーは、スーパーバイズする問題・課題について責任を負うことはない。
- 2 スーパービジョンにおいては、所属機関や施設の管理的要素が含まれることは望ましくないので、職場の上司がスーパーバイザーとなることはない。
- 3 同僚同士のケース検討会もスーパービジョンの一形態である。
- 4 スーパービジョンの特徴は、スーパーバイザーに対する徹底したソーシャルワーク技術の教育であり、支持的なケース検討とは異なる。
- 5 他職種とのケース検討（ケース・カンファレンス）による、それぞれの専門性を超えて行われる助言もスーパービジョンの重要な一形態である。

**問題 130** ケアマネジメントに関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ケアマネジメントは、相談援助に一定期間従事した上で、規定の研修を修了した者しか行えない。
- 2 ケアマネジメントが必要であるにもかかわらず、それを自覚できない人に対しては、対象とできないため働きかけの必要はない。
- 3 ケアマネジメントでは関係者との連携強化に伴って、精神障害者本人の個人情報漏えい危機の可能性も高まる。
- 4 ケア計画の実施に際しては、最初のケア会議の段階で精神障害者本人の同意を得ておけば、適宜本人の意向を確認する必要はない。
- 5 地域においてクライアントのニーズ充足に必要な社会資源が不足している場合は、社会資源の改善、開発を目指してソーシャルアクションを行う。



**問題 131** 地域相談支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域移行支援では、地域移行支援計画を作成するため、サービス等利用計画は必要ない。
- 2 地域移行支援では、本人が安心して退院できることが重要なため、期限を設けない。
- 3 地域移行支援計画は、本人の生活課題の洗い出しが主となる。
- 4 地域定着支援は、地域移行支援を利用した者でなくても利用できる。
- 5 地域定着支援では、夜間時などの緊急対応の場合は医療機関で対応する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題132から問題134までについて答えなさい。

〔事例〕

高校1年生のLさん(16歳、女性)は高校入学1か月後より不登校の傾向がみられ、夏休み明けからはほとんど登校ができなくなった。元来Lさんはおとなしい性格で、小学生時代に持ち物を隠されたり仲間外れにされるなどのいじめを受けたことがあるが、誰にも悩みを打ち明けることなく過ごしていた。中学校では友人もでき比較的安定した生活を送っていたが、高校は第一志望に入ることができなかったこと、通学距離が遠いこと、仲が良かった中学時代の友人と離れてしまったことがあり、さらに高校の雰囲気になじめず、クラスの大半の生徒が参加しているSNS(ソーシャルネットワークサービス)のグループにも誘われず、疎外感を感じるようになった。

Lさんの高校のスクールソーシャルワーカーであるM精神保健福祉士が面接や家庭訪問などの援助を行ってきたが、次第に抑うつ傾向や希死念慮もみられるようになったため、紹介によりW精神科クリニックを受診することとなり、A精神保健福祉士が担当して初回の面接を行った。(問題132)

その後の援助の過程で、母親は過干渉な傾向があり、父親は普段Lさんの生活状況に関して無関心だが、「甘えている」「気合が足りない」などの発言があることがわかり、さらにLさん自身からは「親や先生、友人にも自分の意見を言えない」「私が何か言ったら批判されたり非難されるのではないか不安」「勉強が遅れてしまうことが心配」などの話を聞くことができた。(問題133)

やがて抑うつ状態も回復し、2月になった頃からはLさんの表情も明るくなり時折笑顔もみせるようになった。さらに「このまま休み続けているのもよくないと思う」「そろそろ動き出さねば」「今からでも学校に戻れるでしょうか?」という積極的な発言がみられるようになった。そこで担任やM精神保健福祉士の提案のもと、クラス替えを機会に復学を目指すことになり、Lさんも同意した。復学にあたり、A精神保健福祉士は主治医と母親、高校からはM精神保健福祉士と担任、養護教諭に出席してもらい、今後の援助について会議を開くことを計画した。(問題134)

**問題 132** 次の記述のうち、この時点のLさんに対する支援について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 今後、入院の可能性もあることを伝える。
- 2 話を傾聴し受け止める。
- 3 精神障害者保健福祉手帳の取得を勧める。
- 4 短期間で復学できる具体的な方法を一緒に考える。
- 5 生活保護などの経済的支援の内容について説明する。

**問題 133** 次の記述のうち、この時点のLさんに対する援助で優先すべき支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 発言内容に対し、「他者の評価は気にしないように」と伝える。
- 2 アサーショントレーニングの導入を検討する。
- 3 より負担の少ない通信制高校への転校を検討する。
- 4 勉強が遅れることを防ぐため、学習塾へ通うことを提案する。
- 5 両親に対し、Lさんに威圧的に接することをやめるよう説得をする。

**問題 134** 次の記述のうち、この時点のLさんへの援助方針として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 今後はすべての相談について、A精神保健福祉士が担当する。
- 2 当面は保健室登校を目指した支援計画を立てる。
- 3 話し合われた結果は、原則としてすべてLさんに伝える。
- 4 友人作りのために、部活動に参加することを勧める。
- 5 復学後、クラスの全員にLさんへの接し方について説明の機会を持つ。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題135から問題137までについて答えなさい。

〔事例〕

Bさん(32歳、男性)は、大学在学中に統合失調症を発症し、数回の入院をした後にアルバイトを転々とし、ひきこもりがちな生活を経て、現在はアルバイトをしながら地域の多機能型事業所(以下「Y事業所」という。)の地域活動支援センター事業を利用している。Bさんは自尊感情が低くかつ不安が強く、調子に波があり、Y事業所にはほぼ毎日通う時期もあれば、被害的になり人の目が気になって数週間休むときもあった。またBさんは、自身が諜報活動に関わっていると思っていることから、英語やニュースの勉強を熱心に続けていて、そこで得た情報等を職員や他の利用者に積極的に話しかけていたが、親しく話す友人はいないようであった。

ある日、Y事業所のC精神保健福祉士は、不安気な表情のBさんから「誰も私の話を聞いてくれない、私のことを避けている」と相談を受けた。(問題135)

C精神保健福祉士は、Bさんがファシリテーターとなって「英語を学ぶ会」を作ることを提案した。Bさんは「やりたいけれど、自信がない」と言うので、話し合いの末、当初はC精神保健福祉士がファシリテーターをすることにした。(問題136)

会を始めてから1年が過ぎた頃、C精神保健福祉士は、Bさんから「会が停滞している。もっと多くの人と交流したい」と相談を受けた。以前から、子どもも交えた住民交流の場所や機会が少ないという地域住民の声を聞いていたC精神保健福祉士は、Y事業所の1階部分を利用して地域の人が障害者と交流する場にしたと考え、地域の人と一緒に英語を勉強する会を行うことを提案した。

Bさんたち利用者や地域の有志、民生委員も交えて話し合いを行い、英語絵本の朗読や英語の歌など、英語を使って交流する単発のイベントとして進めることになった。イベントは地域の民生委員等の協力もあり成功裏に終了し、Bさんたち利用者も満足した様子であった。その後、Bさんを中心とした利用者の提案により、このイベントは内容を変えながら定期的に行われることとなった。また、イベント会場でもあるY事業所の1階を改装し、Bさんたち利用者が店員になり、地域の人達が子連れで交流できる喫茶店として週2回開店することになった。(問題137)

**問題 135** 次の記述のうち、この時点での**C**精神保健福祉士の、**B**さんへのストレングスモデルに基づく対応として、**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 **B**さんに、自身の妄想についての理解を促した。
- 2 **B**さんが安定して通えるように、主治医に服薬について相談することを勧めた。
- 3 **B**さんの気持ちや希望について話を聞き、今後について一緒に考えた。
- 4 他の利用者への話しかけ方について、**B**さんと練習した。
- 5 利用可能な他の事業所について**B**さんに説明した。

**問題 136** 次のうち、**Y**事業所で形成された「英語を学ぶ会」のように、当事者がファシリテーターとなって行う活動を表すものとして、**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 クラブハウス
- 2 ソーシャルファーム
- 3 コミュニティミーティング
- 4 エンカウンターグループ
- 5 ピアサポート・グループ

**問題 137** 次の記述のうち、事業所の1階を喫茶店にした時点での**C**精神保健福祉士の目的として、**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 **B**さんたち利用者のための就労支援を目的とした訓練の場を提供すること。
- 2 **B**さんたち利用者の日中活動の場としての機能だけでなく、地域住民との交流の場、情報発信の場として社会資源の開発を行うこと。
- 3 地域住民の協力を得て、**B**さんの支援に必要なネットワークを形成していくこと。
- 4 **B**さんたち利用者が地域社会に貢献するボランティアグループを形成すること。
- 5 **B**さんや地域住民、民生委員とともにチームを構成し、チームアプローチにより**B**さんへの援助を展開していくこと。

### (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題138から問題140までについて答えなさい。

〔事 例〕

D精神保健福祉士は、Z保健所に勤務している精神保健福祉相談員である。民生委員のEさんがD精神保健福祉士のもとに相談に訪れた。Eさんの隣家に住むFさん（55歳，男性）が夜中に大声を出したり，自宅の庭にごみを溜め異臭を放っているとのことである。Eさんが直接Fさんの家を訪れ様子を伺ったところ，「うるさい！」と怒鳴られ，取り付く島がなく困っているとの内容であった。D精神保健福祉士が担当しているこの地域は，民生委員のEさんをはじめ，面倒見のよい住民が多く，近所同士の助け合いが活発な地域である。

D精神保健福祉士は，Z保健所に残っているFさんに関する記録を確認したところ，昨年の訪問ではFさんは高齢の母親と暮らしており，統合失調症により何度もU病院へ入退院を繰り返しているとの記述があった。

翌日，D精神保健福祉士は保健師と一緒にFさんの家を訪問した。庭は様々なごみであふれ，虫も発生している状態であった。玄関のドアが開いていたため声をかけるとすぐにFさんが出てきた。無精ひげをのばし，顔色も悪く，調子が悪そうな様子で聞き取れないほどの小声で独り言をつぶやいていた。（問題138）

D精神保健福祉士が何度か訪問を重ねていくと，ある日Fさんから，「母が急に他界し困っている。生活のことはすべて母がやってくれていたのですが食事の支度や掃除，ごみの出し方など何もわからない。でもこの家で暮らしていきたい」と相談された。（問題139）

D精神保健福祉士は，その後も定期的に訪問し，半年後にはFさんの生活は安定していた。将棋が得意なFさんは1人で過ごす時間を持て余し，D精神保健福祉士に将棋の対戦相手になって欲しいと何度も頼んでいた。D精神保健福祉士はFさんが地域で孤立しないような体制づくりが必要と考え，民生委員のEさんに相談すると，将棋が好きな住民によるサークル活動があるとの情報を得た。Eさんの紹介によりFさんはサークル活動に参加し，これをきっかけに住民との関係が深まり，D精神保健福祉士はFさんを見守る体制づくりを住民へ提案した。（問題140）

**問題 138** 次の記述のうち、この時点におけるD精神保健福祉士の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 統合失調症の再発の可能性があるため、FさんにU病院への入院の必要性を説明する。
- 2 近隣住民が迷惑しているので、庭のごみを早急に片付けるようFさんに伝える。
- 3 Fさんが困っていることを話せるよう傾聴し、協力者であることを伝える。
- 4 調子が悪そうなFさんに負担をかけてしまうことを気遣い、D精神保健福祉士と保健師で今後の対応を決める。
- 5 自傷他害のおそれがあるため、民生委員のEさんに指定医の診察及び必要な保護を都道府県知事に申請するよう説明する。

**問題 139** 次の記述のうち、この時点におけるD精神保健福祉士の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 FさんにSST（社会生活技能訓練）を行い、Fさんが困っていることに一人で対処できるよう練習を繰り返す。
- 2 一人で生活していく能力がないと判断し、Fさんに宿泊型自立訓練への入所を勧める。
- 3 地域の問題は住民が解決することなので、近隣住民でFさんを支えるよう民生委員のEさんを説得する。
- 4 地域生活の継続を支援するため、Fさんに居宅介護のサービスと利用手続きについて説明する。
- 5 母親に生活のすべてを任せていたFさんには判断能力がないため、成年後見制度の利用について基幹相談支援センターへ相談する。

**問題 140** 次のうち、D精神保健福祉士が提案した支援の方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーション
- 2 ピアサポート
- 3 スーパービジョン
- 4 ソーシャル・ウェルフェア・プランニング
- 5 コミュニティソーシャルワーク



## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題141から問題143までについて答えなさい。

〔事例〕

Gさん(76歳, 女性)と同居している息子のHさん(51歳)のことで, 担当しているJ介護支援専門員が, 保健所のK精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)のもとに相談に訪れた。最近, Gさんに認知症の症状がみられるが, 息子のHさんが母親であるGさんの世話をしておらず, 虐待が疑われるとのことであった。また, Hさん自身も現在仕事をしていない状態とのことであった。K精神保健福祉相談員がJ介護支援専門員とともに訪問に行くと, 家の中は弁当の容器やパンの袋, ペットボトルが散乱して足の踏み場もない状態だった。また, ビールの空き缶や焼酎の空き瓶も多数確認できた。息子のHさんは不在だった。K精神保健福祉相談員は, Gさんと話をしたが, 会話が時折かみ合わないことがあるものの, おおむね意思疎通はできた。Gさんは「息子にはよくしてもらっている」「最近食欲がない」と話した。体はやせ気味で体調も悪そうだったため, J介護支援専門員とも相談して近医に受診させるとともに, 見守りの意味も含めたサービスの利用を提案した。(問題141)

その後, K精神保健福祉相談員は定期的にGさん宅を訪れた。数回の訪問のうち, たまたま居合わせたHさんと会うことができたため, 話をすることができた。Hさんは酒臭が強く, 酔っぱらった口調で「なぜ行政の人間が頻繁に訪ねてくるのか」「何か疑っているのか」という攻撃的な言動であった。(問題142)

訪問の回数を重ねていくうちに, だんだんとHさんも心を開いて話をしてくれるようになった。「母親のことは何とかしたいと思っている」「話が通じないことがあると, カットとなってきつく言うこともある」「仕事が決まればもう少し気持ちにも余裕が持てる」と話してくれた。Hさんに対しても支援が必要と考え, K精神保健福祉相談員は話を聞き, 適宜アドバイスをした。

定期訪問を開始した3か月後, 酔ったHさんがGさんに暴言を吐いている声に驚いた近隣住民が警察に通報するというできごとがあった。K精神保健福祉相談員は, 今後の対応について, 地域包括支援センター, 社会福祉協議会, 介護支援専門員, 民生委員と話し合いを持つことにした。(問題143)

**問題 141** 次のうち、この時点で利用するサービスとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生活介護
- 2 成年後見制度
- 3 重度訪問介護
- 4 通所介護
- 5 居宅介護

**問題 142** 次の記述のうち、K精神保健福祉相談員の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「何か疑われるようなことでもあるのですか」と質問する。
- 2 「お母さんを悲しませないためにもきちんと仕事してくださいよ」と諭す。
- 3 「お酒はいつもどれくらい飲まれるのですか」と事実確認する。
- 4 「あなたに高齢者虐待の疑いがあります」と直面化させる。
- 5 「今日はお酒を飲んでおられる様子ですので、今度、飲んでいないときにお話しさせてください」と伝えメモを置く。

**問題 143** 次の記述のうち、話し合いの方向性として出されたHさんへの働きかけとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 措置入院を検討する。
- 2 高齢者虐待の相談窓口として基幹相談支援センターを紹介する。
- 3 アルコール問題への動機づけ支援を行う。
- 4 民生委員の毎日の訪問指導を実施する。
- 5 就労のために障害者就労・生活支援センターを紹介する。

## 精神保健福祉に関する制度とサービス

**問題 144** 精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神医療審査会は、精神科を利用するあらゆる患者の人権に配慮した処遇の確保を図るために、1987年（昭和62年）の精神保健法で都道府県及び指定都市に設置された。
- 2 精神医療審査会は退院及び処遇改善の請求に基づき、その処遇が適当であるかどうかについて審査し、その結果を直接請求者に通知する。
- 3 精神医療審査会は委員5人による合議体で審査にあたる。その内訳は「精神科医療の学識経験者2名以上」「法律に関する学識経験者1名以上」「その他の学識経験者1名以上」となる。
- 4 退院又は処遇改善の請求は、患者本人又はその家族等及び代理人である弁護士が行うことができる。
- 5 2010年（平成22年）の「精神保健福祉法」の改正に伴い、精神医療審査会運営マニュアルが改正され、予備委員を合議体を構成しない委員としておくことができるようになった。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 145** 退院後生活環境相談員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科病院の管理者は、医療保護入院者1人につき1人の退院後生活環境相談員を退院予定の7日以内に選任しなければならない。
- 2 退院後生活環境相談員は、病院の管理者が適当であると認めた者が担うことができる。
- 3 退院後生活環境相談員の業務は、医療保護入院者退院支援委員会に関することと、定期病状報告の退院に向けた取組みの記載に関することの2つである。
- 4 医療保護入院者が引き続き任意入院に変更をして入院を続けることとなった際には、退院後生活環境相談員の役割はいったん解かれ、これまで行われていた退院支援も中止となる。
- 5 退院後生活環境相談員1人当たりの担当の数は、おおむね50人以下の医療保護入院者とされる。

**問題 146** 「障害者差別解消法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「障害者差別解消法」では、国の行政機関及び地方公共団体さらに民間業者に対して不当な差別的取り扱いを禁止し、社会的障壁の除去の実施についての合理的な配慮を義務づけている。
- 2 「障害者差別解消法」の成立にみるように、我が国では2006年（平成18年）に国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」の批准に向けた整備を行っているところである。
- 3 「障害者差別解消法」における「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本指針」では、行政機関は「対応要領」を定めることが求められるが、地方公共団体にあってはその作成は努力義務とされている。
- 4 「障害者差別解消法」の対象となる障害者とは、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者」とされる。
- 5 「障害者差別解消法」は、2013年（平成25年）の「障害者総合支援法」の推進を後押しし、障害者の社会参加を確固たるものとするために、2016年（平成28年）4月より施行された法律である。

(注) 1 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

**問題 147** 市町村業務に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 市町村が担う精神保健福祉にかかる相談援助の役割は、「精神保健福祉法」第6条により定められている。
- 2 市町村では、精神障害者の地域移行と地域定着を支援する相談支援及び基本相談支援を担う一般相談支援事業者の指定を行っている。
- 3 市町村に障害サービスの利用に関する相談や調整などの支援の実施が義務づけられたのは、1999年（平成11年）の「精神保健福祉法」改正においてである。
- 4 市町村は、基幹相談支援センターを設置することはできない。
- 5 市町村では、間接的な相談援助の機能として関係機関に対する技術指導及び相談援助などを展開している。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 148** 生活保護に関する次の記述のうち、**適切なものを1つ**選びなさい。

Lさん（男性，51歳）は，地方の高校を卒業後，就職のため上京し，住み込みで小さな鉄工所で働いていた。20代の頃から酒を飲み始め，30代の時にはアルコール依存症と診断されたことがあった。その後も，鉄工所の社長の理解もあり住み込みを続けながら働いていた。しかし，48歳の時，鉄工所が倒産したことから，住み込みで働いていたLさんは住む場所を失い，路上生活を送るようになっていった。このたび，路上生活者を支援する団体の炊き出しの際に，活動に参加していたM精神保健福祉士が，Lさんの体調に気づき支援していくこととなった。この後，Lさんは，生活保護受給と同時に，生活保護法による保護施設に入所することとなった。

次のうち，Lさんが入所した生活保護法による保護施設として，**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 軽費老人ホーム
- 2 強制適用事業所
- 3 保護観察所
- 4 救護施設
- 5 指定入院医療機関

**問題 149** セルフヘルプグループに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループは、1993年（平成5年）に示された「国民の社会福祉に関する活動への参加の促進を図るための措置に関する基本的な指針」を契機に展開されていった。
- 2 セルフヘルプグループの目的の一つに、「地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる」がある。
- 3 セルフヘルプグループは、「精神障害者地域移行・地域定着支援事業」の実施において、新しい人的資源として導入された。
- 4 フォーマルな社会資源としてセルフヘルプグループは法的に位置づけられている。
- 5 セルフヘルプグループの特徴に、リースマン（Riessman, F.）による「ヘルパー・セラピー原則」があげられる。

**問題 150** 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 心神喪失によって無罪判決が確定した者は「医療観察法」の対象とならない。
- 2 少年（20歳未満）は、刑事処遇相当とされた場合を除き、「医療観察法」の対象とならない。
- 3 検察官は家庭裁判所に対して処遇の申立てを行う。
- 4 申立てを受けた裁判所は裁判官1名、精神保健指定医1名の合議体を構成する。
- 5 審判により入院による医療が決定された場合、その入院期間は原則3年である。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。



**問題 151** 「医療観察法」における精神保健福祉士の役割に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健審判員は、原則、精神保健福祉士から任命される。
- 2 精神保健福祉士ならば誰でも精神保健参与員となることができる。
- 3 精神保健参与員は精神保健福祉の専門的な視点から意見を述べることで、審判に  
関与する。
- 4 入院が決定した場合、社会復帰調整官が中心となって入院処遇を行う。
- 5 社会復帰調整官は、入院の継続、退院の決定、精神保健観察の継続、処遇の終了  
などの決定を行う。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療  
及び観察等に関する法律」のことである。

**問題 152** N市は、市内にある障害福祉サービス事業所の利用者全員を対象とした  
障害者福祉サービスの満足度調査を実施した。その結果、他の障害と比較して精神  
障害者の満足度が低いことが明らかになった。そのため、精神障害者を対象とした  
インタビュー調査を行うことにした。この調査では、これまで利用した障害者福祉  
サービスの種類、利用に至った経緯、利用した感想などの質問項目について、調査  
対象者が自由に自分の思いを語れるように配慮しながら聞き取りを行うことになっ  
た。さらに、話の流れに応じて適切な質問を順次追加しながら、調査対象者の語り  
を引き出すことにした。

次のうち、今回実施することになったインタビュー調査の方法として、正しいも  
のを1つ選びなさい。

- 1 半構造化面接
- 2 非構造化面接
- 3 構造化面接
- 4 参与観察
- 5 パネル調査

## (精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題153から問題155までについて答えなさい。

### 〔事例〕

Aさん(25歳、男性)は、大学生だった20歳のときに統合失調症と診断され精神科病院に約1年間入院した。退院後Aさんは大学を中退し、会社員の父親、専業主婦の母親、2歳年下の弟と4人で暮らしていた。ある日、弟がAさんに向かって「早く仕事しろ」と言ったことから、Aさんは激昂し、玄関にあったゴルフクラブで弟の頭を数回殴り、失血死させた。この事件当時、Aさんは統合失調症の心神喪失状態にあったとして裁判で無罪判決が確定した。検察官はAさんを地方裁判所に「医療観察法」の対象者として申し立てた。この申立てに基づき地方裁判所で審判が開かれ、Aさんの鑑定入院の結果や、保護観察所のB社会復帰調整官が行った生活環境の調査から、入院処遇が適当と判断された。Aさんの入院処遇が決定するとB社会復帰調整官は、あることに着手した。(問題153)

指定入院医療機関に入院して間もなく、Aさん、Aさんの両親、指定入院医療機関の専門職、B社会復帰調整官、地域の関係機関職員などが出席して会議が開催された。Aさんは会議で、退院したらまずは実家に戻り両親と生活したいと話した。両親は、Aさんの面倒をみなくてはならないと思う一方、今回の事件で近隣の住民に迷惑をかけたとも感じており、また同じようなことが起こらないかも併せ、Aさんが退院してきたあと同居することに強い不安を感じていると話した。(問題154)

入院後Aさんは徐々に精神的に落ち着いてきたため、入院して1年ほど経った時期の会議で、Aさんの退院後の生活についてC精神保健福祉士は障害福祉サービス事業所の利用を提案した。定期的に会議を開催して話し合いを重ね、まずは障害福祉サービス事業所の利用から始めてみてはどうかということになった。AさんとAさんの両親は退院に不安を示したが、退院後の関係機関の支援についてB社会復帰調整官が何度か説明するうちに、C精神保健福祉士が提案した障害福祉サービス事業所を利用することに理解を示すようになった。(問題155)

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

**問題 153** 次のうち、この時点でB社会復帰調整官が着手したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんの退院後の処遇に関する実施計画の作成
- 2 AさんとAさんの両親に対して「精神保健福祉法」による入院の説明
- 3 Aさんについての精神保健観察の実施
- 4 Aさんの社会復帰を促進するための生活環境の調整
- 5 Aさんの入院処遇期間中の個別治療計画の作成

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 154** 次のうち、この時点の会議で話し合われた内容について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんが服薬の自己管理をできるようになるための支援について
- 2 Aさんが治療の必要性についての理解を深められるかかわりについて
- 3 Aさんの院外への外出計画の作成について
- 4 Aさんの退院後の通院先である指定医療通院機関の確定について
- 5 Aさんの障害受容のための治療プログラムへの参加について

**問題 155** 次のうち、C精神保健福祉士が提案した障害福祉サービス事業所として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センター
- 2 就労移行支援事業所
- 3 共同生活援助（グループホーム）
- 4 地域生活定着支援センター
- 5 地域活動支援センター

## 精神障害者の生活支援システム

**問題 156** 障害の概念及び精神障害者の特性に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「精神分裂病」という病名は否定的イメージを与え、偏見を生むことから、「統合失調症」に変更され、1987年（昭和62年）の精神保健法制定時に、法的にも病名が改称された。
- 2 「精神保健福祉法」第5条に規定されている精神障害者の定義に関して、2013年（平成25年）の法改正時に、発達障害者が追加された。
- 3 国際生活機能分類（ICF）では、人間の生活機能と障害について、「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3次元と、それらの背景因子となる「個人因子」「社会因子」から構成される。
- 4 精神障害の特性として、疾患と障害の併存が挙げられるが、その1つとして、感情の平板化や意欲減退から起こるひきこもりなどの陰性症状と、機能障害によって生活の作業遂行に支障が出る生活障害がある。
- 5 精神障害者が抱える対人関係障害やコミュニケーション障害に関して、精神療法を行うことで情緒面が安定し、改善が期待できる。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 157** 精神障害者の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 2014年度(平成26年度)の精神障害者保健福祉手帳交付者の総数は、約70万人で、年々増加傾向にある。
- 2 医療保護入院者数は、1998年(平成10年)以降その届け出数は年々減少している。
- 3 精神科入院患者数を在院期間別にみると、「5年以上10年未満」の入院が最も多く、全体の約3割を占める。
- 4 雇用義務のある民間企業における雇用障害者数を障害種別で見ると、知的障害者の雇用率が最も多く、次いで身体障害者、精神障害者の順になっている。
- 5 2012年(平成24年)の施設・事業所の入所サービス系と通所サービス系における精神障害者の利用者数を比較すると、通所サービス系は入所サービス系の約10倍の利用者数である。

**問題 158** Dさん（47歳，男性）は，自宅近くの地域活動支援センターに週4回通所しながら，自宅で両親と生活をしている。Dさんは今の生活に満足しており，今後も利用の継続を希望している。

ある日，Dさんと親しい利用者のEさん（52歳，男性）が農作業を行う就労継続支援A型の事業所に正式通所することになった。その数日後DさんはセンターのF精神保健福祉士に，Eさんのように工賃を得られる作業をしてみたいこと，農作業には興味もなく体力もないのでできるとは思わないことなどを，ぼつぼつと話した。

次の記述のうち，F精神保健福祉士がこの時点でDさんの相談に対して行う助言として，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 DさんがEさんの通所で焦っているのではないかと指摘し，主治医に体調の相談を行うように勧める。
- 2 DさんにEさんの通所する事業所の見学を勧める。
- 3 Dさんの地域にある就労支援事業所の情報を説明する。
- 4 経済問題が発生した場合に備え，生活保護制度を説明する。
- 5 DさんにEさんと比較することなく，もともとの希望であった地域活動支援センターの利用を続けるよう助言する。

**問題 159** 精神保健福祉相談員の業務に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科病院において医療保護入院者の退院を促進するため、退院後の生活環境に関し医療保護入院者及びその家族からの相談に応じる。
- 2 措置入院している精神障害者の退院の請求について、意見聴取を実施する。
- 3 公共職業安定所に配置され、精神障害者の就労に対するカウンセリング業務や精神障害者の雇用に関する企業の意識啓発等の支援を行う。
- 4 精神障害者の障害支援区分にかかる審査判定業務を行う。
- 5 精神保健福祉センターに配属され、精神障害者やその家族を訪問して必要な指導を行う。

**問題 160** 精神障害者の居住支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 グループホームは障害支援区分2以上でないと利用することができない。
- 2 グループホームを退居し、一般住宅等への移行を目指す人のためにサテライト型住居がある。
- 3 住宅入居支援事業（居住サポート事業）は、入居支援、24時間支援、居住支援のための関係機関等によるサポート体制の調整を行う都道府県地域生活支援事業である。
- 4 グループホームの入居者に給付される特定障害者特別給付費は、家賃以外に光熱費や食費も対象となる。
- 5 福祉ホームは、身体上又は精神上著しい障害があるために日常生活を営むことが困難な要保護者を入所させて、生活扶助を行う居住施設である。

## (精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題161から問題163までについて答えなさい。

### 〔事 例〕

Gさん(30歳, 男性)は大学卒業後に大手の会社に就職したが, 大学時代と違いチームワークなどが求められ, 周囲との関係がうまくいかず, また上司に何度も仕事内容を注意され, 叱責されることもしばしばだった。Gさんは仕事に行くのがつらくなり, 3か月で自ら会社を辞めた。その後, 数年間アルバイトを経験したが, いずれも周囲との関係がうまくつくれず短期間で辞めている。20代後半から不眠が続き, 強い不安, 抑うつに襲われるようになり, 心療内科を受診したところ, うつ病と診断された。また, Gさんの独特なコミュニケーション方法や対人関係の持ち方, これまでの生活歴からアスペルガー障害とも診断された。

Gさんは働きたい気持ちが強く, これまでの仕事上の困難が自らの障害からくることを理解し, 障害者の就労支援について調べた。また, Gさんの住む地域の役所に相談に行き, V就労移行支援事業所を紹介された。そこで, V事業所のH精神保健福祉士に相談に行き, 一般就労を目指しV事業所を利用することとなった。

H精神保健福祉士は, 関心のある仕事やこれまでの仕事が長く続かなかったGさんなりの理由や困難さを聴き取った。H精神保健福祉士は, 客観的な職業の適性や作業能力などを確認したいと考えたため, 外部の機関も利用することを提案した。

(問題161) また, 精神障害者保健福祉手帳の申請も行った。

V事業所を利用し1年が経ったところで, Gさんは近隣の障害者雇用の実績がある300人規模の食品加工会社で2週間の実習を行った。H精神保健福祉士は, 職場訪問でGさんの働き方などを確認し, 会社の担当者とGさんの特徴に沿った仕事の進め方を考えていった。実習終了後, 同社の週30時間勤務の障害者雇用枠で就職を目指すこととなった。(問題162)

その後Gさんは無事就職することができ, V事業所に籍をおきながら毎日仕事に通っている。ただし, Gさん独特のルールやコミュニケーション方法が職場内で理解してもらえるよう, またGさん自身の就労上の課題に取り組むため, 専門職が支援に入ることとなった。(問題163)



**問題 161** 次のうち、この時点で利用する外部の機関として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 公共職業安定所
- 2 地域障害者職業センター
- 3 就労継続支援事業A型
- 4 発達障害者支援センター
- 5 障害者職業能力開発校

**問題 162** 次のうち、この時点でH精神保健福祉士が会社に勧める助成金制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害者・難治性疾患患者雇用開発助成金
- 2 障害者雇用調整金
- 3 障害者初回雇用奨励金
- 4 精神障害者職場定着支援奨励金
- 5 障害者トライアル雇用奨励金

**問題 163** 次のうち、Gさんを支援する専門職として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者雇用トータルサポーター
- 2 障害者職業カウンセラー
- 3 職業指導員
- 4 職場適応援助者
- 5 障害者職業生活相談員